

## 小坂時間旅行

### Kosaka time trip

佐藤信治<sup>1</sup>, ○西村寿々美<sup>2</sup>, 勝部秋高<sup>2</sup>, 大久保将吾<sup>3</sup>, 中野沙紀<sup>3</sup>, 上島萌夢<sup>3</sup>, 川内俊太郎<sup>3</sup>

Shinji Sato<sup>1</sup>,

\*Suzumi Nishimura<sup>2</sup>, Akiaka Katsube<sup>3</sup>, Shougo Okubo<sup>4</sup>, Saki Nakano<sup>5</sup>, Moemu Kamijima<sup>6</sup>, Shuntarou kawauchi<sup>7</sup>

The site is located in Kosaka Town, Kazuno City, Akita Prefecture. This small town once prospered with mining resources and has a history as a mining town since the early Meiji era. Many valuable cultural properties can be seen as traces of prosperity in the area, and they still exist today. All of them are handmade by the townspeople in the image of Kosaka Town in the Meiji era. There is a background that has come to Kosaka. Since the spirit of cherishing the legacy of the past is rooted in Kosaka, there are eaves everywhere in the town that retain the style of the Meiji era that makes you feel the prosperity of the time. The "former Kosaka Railway", which has supported the infrastructure of Kosaka Town for a long time, is now abandoned and only railroad tracks, abandoned stations, and trains are left behind. The mining industry that supported Kosaka Town's economy was gradually reduced due to the rapid appreciation of the yen and the depletion of ore in the 1960s. The factory that was once used as a smelter is still in use today. Impressive red brick Has the appearance of The Tsuko factory is made of timber-framed bricks. Currently, the smelting of ore has been stopped and the industry has shifted to the recycling industry that extracts metal from used mobile phones and scraps. We are waiting for the activity as a new tourism resource. Therefore, we will re-excavate the charm by performing architectural operations on the existing abandoned lines and historic sites in Kosaka Town. It is important to interpret the existing potential of Kosaka Town from a new perspective. By installing a moving building centered on the abandoned line of Kosaka Town, we propose a new way to enjoy the city.

#### 1. はじめに

敷地は秋田県鹿角市小坂町という場所。この小さなまちはかつて鉱山資源により栄え、明治初期より鉱山の町としての歴史を歩んできた。このまちには鉱山産業で繁栄していた痕跡として貴重な文化財が数多くみられ、現在も現役で存在している。それらはすべて、明治時代の小坂町をイメージして町民が手作りで整備してきた背景がある。小坂には、かつてのレガシーを遺し、大切にしていける精神が根付いているため、当時の繁栄を感じさせる明治期の風格を残した建造物がまちの至る所に軒を連ねている。小坂町のインフラを長きにわたって支えてきた“旧小坂鉄道”は現在廃線となり線路と廃駅そして、列車だけが取り残されている状況だ。小坂町の経済を支えていた鉱山産業は昭和60年代の急激な円高や鉱量の枯渇等により、徐々に縮小していった。かつて製錬所として使われていた工場が現在も現役で使われている。印象的な赤煉瓦の外観を持つこの工場は木骨煉瓦造。現在は鉱石の製錬をやめ、使用済み携帯電話やスクラップ等から金属を取り出すリサイクル産業へとシフトした。いっぽう、廃線となった小坂鉄道は愛好家によって鉄道車両などの整備が行われ、新たな観光資源として活躍を待っている。そこで、小坂町に現存している廃線と史跡に建築的操作

を施していくことにより、魅力を再発掘していく。小坂町に現存するポテンシャルを新たな切り口で解釈することが重要だ。小坂町の廃線を軸線とした動く建築を設置することにより、新たな街の楽しみ方を提案する。

#### 計画背景

##### 1.1. 史跡と廃線が残されたまち

秋田県鹿角市小坂町はかつて鉱山資源により栄え、明治初期より鉱山の町としての歴史を歩んできた。このまちには鉱山産業で繁栄していた痕跡として貴重な文化財が数多くみられ、現在も現役で存在している。

それらはすべて、明治時代の小坂町をイメージして町民が手作りで整備してきた背景がある。

##### 1.2. 衰退と共に廃棄処分状に姿を変える

小坂町の経済を支えていた鉱山産業は60年代の急激な円高や鉱量の枯渇等により、徐々に縮小していった。かつて製錬所として使われていた工場が現在も現役で使われている。印象的な赤煉瓦の外観を持つこの工場は木骨煉瓦造。現在は鉱石の製錬をやめ、使用済み携帯電話やスクラップ等から金属を取り出すリサイクル産業へとシフトした。いっぽう、廃線となった小坂鉄

1:日大理工・教員・海建 Department of Oceanic Architecture and Engineering, CST, Nihon University.

2:日大理工・院(前)・海建 Department of Oceanic Architecture and Engineering, CST, Nihon University.

3:日大理工・学部・海建 Department of Oceanic Architecture and Engineering, CST, Nihon University

道は愛好家によって鉄道車両などの整備が行われ,新たな観光資源として活躍を待っている.

## 2. 基本方針と計画

小坂町に現存している廃線と史跡に建築的操作を施していくことにより,魅力を再発掘していく. 小坂町に現存するポテンシャルを新たな切り口で解釈することが重要だ. 小坂町の廃線を軸線とした動く建築を設置することにより, 新たな街の楽しみ方を提案する. 小坂町に現存している風景を利用し, 歴史的な風景の一部を切り取る. 明治最盛期の躍動感溢れるシーンは人々の心に視覚的に働きかけ. 来訪者は時間の流れを忘れ, まるでタイムスリップしたかのような感覚に陥る.

## 4. 建築計画

### 4.1 鎮座する汽車と移動する建築

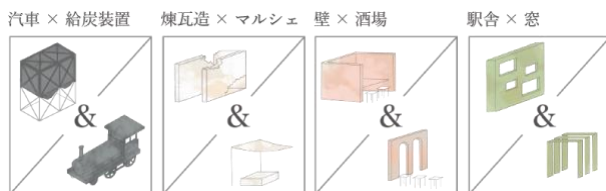


Figure 1. moving architecture

鎮座する汽車は当時の時間を車内に封じ込め, 移動する建築は“車窓”や“連結階段”により, 一般的な建築では実現できない空間を作り出す. その仕掛けはまさに来訪者を「時間旅行」へと誘い出す.

### 4.2 風景をトリミングする壁

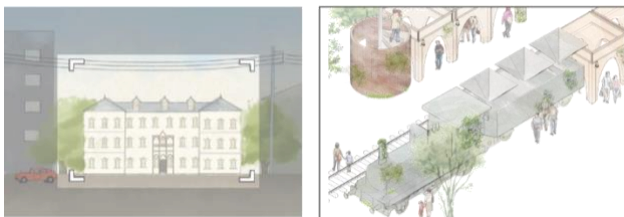


Figure 2. A wall that cuts out the landscape

建築の建具を適所に配置する事により不要な風景を「隠す」. これにより, 風景をトリミングし, 一枚のスナップの様な景色「借景」を得ることができる. 眺める建築というものを作り出す.

## 5. アクソメ, 平面計画

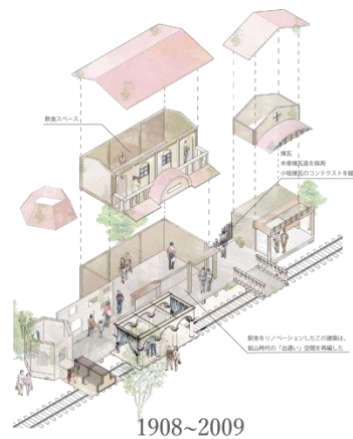


Figure 3. Axonometric drawing

この歴史の積層を建築空間として抽象化し, 建材などを再利用することで複合的に小坂町を新たに再編していく. 廃線は線路という直線的な時間という素材となり, 史跡は時代を切りとった断片としてとらえる. 廃線を軸とした動く建築はこの地でしか体感できない空間を作り出す.

### 5.2 全体計画



Figure 4. example

小坂町の経済を支えていた鉱山産業は昭和60年代の急激な円高や鉱量の枯渇等により, 徐々に縮小していった. かつて製錬所として使われていた工場が現在も現役で使われている, 印象的な赤煉瓦の外観を持つこの工場は木骨煉瓦造. 現在は鉱石の製錬をやめ, 使用済み携帯電話やスクラップ等から金属を取り出すリサイクル産業へとシフトした. いっぽう, 廃線となった小坂鉄道は愛好家によって鉄道車両などの整備が行われ, 新たな観光資源として活躍を待っている.

## 6. 参考文献

- [1] <https://www.town.kosaka.akita.jp>
- [2] <https://utsukushii-mura.jp/map/kosaka/>